

La Movado

Fondita en 1951 N-ro 791 januaro 2017

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU
Niihamatyō 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken 763-0063,
KOSAKA Kiyoyuki

ENHAVO

第17回中国・四国エスペラント大会報告
..... 西谷 照美 1-2
 ロンド・コロノ主催新年会.....2
 初心者のための語尾なし単語の使い方 (49) 相川 節子 2
 楽しい作文教室 (66).....塚本 猛 3
 Kajero Libervola: "Ponto de Cielarko" por mortintaj
 bestoj..... AIKAWA Setuko 4
 第103回日本エスペラント大会(近江八幡)感想
 盲人分科会を手伝って..... 本田 照美 5
 琵琶湖のほとりで手作り石鹸..... 田上 和子 5
 Kelkaj memoroj en Oumihachiman..SHIRAKAWA Yuma 6
 対訳 御伽草子集: 浦島太郎 (6)..... belmonto 6-7
 相関詞の末尾の“-o, -a”は語尾か、語根の一部か? (8)
 田熊 健二 8-9
 Brexit Signifas Brexit.....Ian RAPPLEY 10
 野田淳子さんのコンサートで.....光川 澄子 11
 新人の投稿を Monato が採用.....新田 隆充 12
 La Movado: JEI 講師養成講座ほか..... 11-13
 KLEG 委員会報告..... 13
 Vortkruca enigmo / 作文教室成績..... 14
 Mikspoto / KLEG 事務局だより / 作文教室課題..... 15
 編集ノート..... 16

第17回中国・四国エスペラント大会報告 La 17-a Esperanto-Kongreso de Tyūgoku kaj Sikoku

西谷 照美 (愛媛エスペラント会)

日時: 11月5日(土) ~ 11月6日(日)
 場所: 松山市祝谷町 エスポワール愛媛文教会館
 参加者: 56名 (内不在参加7名、当日参加3名)

5日: 午後は大会前遠足「道後村めぐり」。晴天に恵まれ15名が、漱石、子規も訪れた宝厳寺など、温泉街の史跡を巡った。バンケードは、愛媛の松友勝子さん・竹晶子さんの司会で食事とおしゃべり、

福引等、和やかな交流ができた。勿論、道後温泉も堪能していただけたと思っている。その後の幹事会で今後の中国・四国大会について話し合わせ、来年の大会は2017年9月30日・10月1日に国民宿舎「良寛荘」(倉敷市)で開催されることが決まった。

6日: 開会式の前に、岡山の荒井敏允さんと愛媛の岡田端さんによって記念撮影が行われた。開会式の司会は、二宮賢佑会長代行(大学生)が担当し



た。JEI のメッセージを中塚公夫会長が紹介、その後、横浜から参加した南波文晴さんが来年の日本大会の紹介をした。公開講演は、長町重昭さん（徳島大学名誉教授）による「エスペラントで世界を旅して」。エスペラントとの出会い、ドイツ留学時代のエスペランティストたちとの交流、世界大会への参加、エスペラントを作業言語とする「ベトナム友好村建設を支援する会」の設立当時の話など2、3年ごとの海外旅行を通して体験したエスペラントの魅力を語った。

その後、分科会が次のように9つ行われた（カッコ内は担当者）。「ヒロシマ被爆体験伝承」（忍岡妙子）、「インドネシア語入門」（二宮賢佑）、「身体のリズムと食べ方」（竹晶子）、「鉄道分科会“鉄道に関心を持っていただくために”」（宇田賢吉）、「エスペラント入門“ブローケンでもともかく喋ろうエスペラント”」（小阪清行）、「デジタル紙芝居」（木谷奉子）、「一日体験“広島エス会週例会 笑いながら学ぶ”」（忍岡守隆）、「多言語聖書朗読会」（二宮賢佑・大川光基）、「交通安全分科会“あなたは発煙筒を使えますか？”」（宇田賢吉）。

エスペラント入門講座は、「サザエさん一家の系図」が使用され、マンツーマンで行われた広島エス会週例会では、詳細な指導が行われた。

多言語聖書朗読会は、参加者は少数であったけれども、聖書を10か国の言葉で同時に聞くことができるとても良い機会となった。また初めて体験する発煙筒実験も、後に役立つよい経験であった。

エスペラントを介して、伝えたい思いを発信し続ける、世界の子供達との交流の一助に活動する等、様々な分野での活動を、僅かな時間ではあるけれど垣間見ることができたのは、エスペランティストであることの醍醐味であると思う。大会参加者の温かいご支援の賜物で、無事に閉会できたことに、感謝の気持ちでいっぱいである。

ロンド・コルノ主催 新年会

Novjara Festenado 2017

昼食付きで全エスペラントの人気行事

日時：2017年1月7日（土）11:00-16:00

会場：早稲田・エスペラント会館4階教室

参加費：1,500円（各種割引あり）

連絡先：korno@esperanto.ne.jp（または電話 03-3429-5173 きくしま）

2017.1

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (49)

相川 節子

前置詞 (31) sur (続き)

ところで、「空に月が出ている」という時の「空に」は、*sur la ĉielo* でしょうか、*en la ĉielo* でしょうか。また、「イエスは天へ昇られた」という時の「天へ」は *sur la ĉielon* でしょうか、*en la ĉielon* でしょうか。

こういう場合に役立つのが、例文がたくさん載っている辞書です。たとえば *Plena Ilustrita Vortaro* の *ĉielo* の項の例文を参考にすれば、前者は *sur* で後者は *en* だとわかります。つまり「空」や「天」を平面という感覚でとらえれば *sur* になるし、空間という意識で話すときには *en* になるわけです。*sur* の意味が「～の表面に接して」であり、*en* の意味が「～の範囲内で」ですから、これは自然なことです。

sur は位置を示す他の前置詞 (*en*, *antaŭ*, *sub* など) と同じように、抽象的な意味で使われることもあります。

Li prenis sur sin grandan laboron.

(彼は大きな仕事を我が身に引き受けた)

sur を使った合成語はあまり多くありませんが、日常的に使われるのは *surmeti* でしょうか。

Antaŭ enlitiĝo mi surmetis piĝamon.

(寝床に入る前にパジャマを着た)

衣類や靴を *surmeti* するのは「着る」「履く」という動作で、「着ている」「履いている」という状態を言うものではありません。状態を言いたい時は、*surmeti* ではなく *porti* を使います。

前置詞 (32) trans

「～を渡って」「～を越えて」「～の向こう側に」の意味を持つ前置詞です。*trans* が必要になる場面はそれほどありませんので、使いこなせなくても心配ありません。人が使った時「そんな前置詞があったな」と思い出す程度でいいと思います。

Birdoj libere flugas trans la landolimo.

(鳥は自由に国境を越えて飛ぶ)

合成語としては *transdoni* (誰かを仲介して渡す) があります。「Aさんによろしく」は *Transdonu mian saluton al A* と言います。



①彼は、港で有名な町に住んでいた。

【訳例1】 Li loĝis en la urbo fama pro haveno. (Orion, Ivajo)

【訳例2】 Li loĝis en la urbo fama pro la haveno. (Teo, ikona, M.H., alfa, Fumi)

【訳例3】 Li loĝis en urbo fama pro haveno. (CA, festo)

有名な：fama。

「～で有名な」は fama pro で表現します。pro は原因を示す前置詞です。fama は tre konata なので意味が重複しますが、fame konata でもいいでしょう。但しその場合、de haveno (港によって) と続けるのは間違いです。受動態なので、前置詞 de は行為者を示します。loĝi は「住んでいる」という意味なので、そのまま過去形にして使えます。

②彼は別の町に引っ越した。

【訳例1】 Li transloĝiĝis al alia urbo. (Drako, CA, Ivajo, M.H., alfa, festo, Eiko, Fumi)

【訳例2】 Unu tagon, li transloĝiĝis al alia urbo. (Teo)

引っ越す：transloĝiĝi。

「引っ越す」は「住居を移す」ことなので、新しい場所に移すという意味の trans という接頭辞を使った transloĝiĝi で表現できます。loĝi は線動詞ですが、これは -iĝ を付加して点動詞になっています。居所を移すということで、loki (置く、収容する) を使った translokiĝi (別の場所に行く、移住する) でも表現できるでしょう。

訳例2は原文に「ある日」を追加して考えています。iu (ある未知の) を使って iun tagon とも言えますが、unu を使うと、話者は知っている「ある特定の日」だというニュアンスが出てきます。訳例のように unu に対格の -n は付加しません。複数形の unuj の場合は -n を付加できます。

③彼はメールで新しい住所を送った。

【訳例1】 Li dissendis sian novan adreson per retmesaĝo. ([lian を修正]: Teo)

【訳例2】 Li sendis sian novan adreson per retmesaĝo. (Orion, ikona)

【訳例3】 Li sciigis al amikoj sian novan adreson per retmesaĝo. (Eiko)

【訳例4】 Li donis al mi sian novan adreson per retmesaĝo. (alfa)

メール：retletero、retmesaĝo。

この「メール」は「電子メール」の略ですから、retmesaĝo (ネットワーク経由のメッセージ) が使えます。これはネット上の手紙なので、retletero とも言います。郵便相当の役務は retpoŝto (電子メールサービス) ですので、きちんと表現すれば sendi retleteron per retpoŝto かも知れません。reto (網、ネットワーク) は大抵 interreto の略で、インターネット (世界規模のコンピューターネットワーク) を指します。省略して CA さんのように、rete sendi (ネットで送る) とも言えます。

訳例1ですが、主語の彼と、新住所の持ち主が同じなので、lia ではなく sia nova adreso になります。あちこちに送ったでしょうから、dissendi (方々へ送る) は適切だと思います。送り先としては、訳例3や訳例4のように、友人達や「私」も考えられます。

④その町は人口過密だし、うるさい。

【訳例1】 La urbo estas tro dense loĝata kaj brua. (M.H.)

【訳例2】 En tiu urbo loĝas tro multe da homoj, ke ĝi plenas de bruo. ([一部修正]: Fumi)

【訳例3】 La urbo estas troloĝata, kaj plie bruema. (ikona)

【訳例4】 La urbo estas kaj troloĝata kaj mal-kvieta. (CA)

人口過密の：troloĝata。

loĝi は自動詞ですが、人口密度が高いというときには受動態にして dense loĝata (高密度に住まわれた) と言うことができます。loĝateco (ある地域の居住状況) を使うと、densa loĝateco は「高い人口密度」になります。loĝanto は「住人」ですから、loĝanteco では「人口密度」になりません。tro を付加して troloĝata (適切な程度を超えて住まわれた、人口過密の) とも言えます。

「うるさい」には brua (騒がしい、センセーショナルな) や bruema (騒ぎを起こしがちな、騒々しい) が使えます。

成績は p.14、新しい課題は p.15

「死んだペットは、『虹の橋』で飼い主を待っている」という現代の伝説がある。

Kiel nomi bestojn, kiujn oni bredas en sia domo?

En “Vortaro Japana-Esperanta” troviĝas traduko “dorlotbesto” ĉe la kapvorto “ベツト”. Sed ĝi ne estas taŭga, mi opinias. Bestoj bredataj en hejmoj ne ĉiam estas dorlotataj.

En “Plena Ilustrita Vortaro” ni trovas vortojn “dombesto” kaj “hejmbesto”. Ambaŭ estas bonaj, sed mi preferas la vorton “hejmbesto”, ĉar ĝenerale la bestoj estas rigardataj de la bredanto kiel membroj de sia hejmo.

Mi ne intencas riproĉi la aŭtoron de “Vortaro Japana-Esperanta”. Neniu povas kompili perfektan vortaron, kaj krome la ĝustaj tradukoj foje ŝanĝiĝas laŭ pasado de la tempo. Ekzemple en la vortaro “Daigakusyarin's Vortaro de Esperanto” la kapvorto “polucio” havas tradukon en tre malvasta senco, ol nun la vorto uzata. Lingvo ŝanĝiĝas laŭ la tempo.

Ni reiru al la temo pri hejmbesto.

Estas legendo, ke mortintaj hejmbestoj iras al speciala loko nomata “Ponto de Ĉielarko”. Mi hezitas nomi ĝin legendo, ĉar ĝi estas nova kaj disvastigita per interreto. Prefere mi nomu ĝin “fabelo”?

Jen estas la fabelo:

Inter ĉi tiu mondo kaj Paradizo ekzistas loko nomata “Ponto de Ĉielarko”.

Besto, kiu havis amikan rilaton kun iu homo, iras al “Ponto de Ĉielarko”. Apud la ponto estas agrabla herbejo kaj monteto, kie ili povas ludi kaj kuri.

Manĝaĵoj kaj akvo abundas, sunlumo falas, kaj en varma atmosfero ili vivas tre agrable.

Bestoj, kiuj estis malsanaj kaj vunditaj, ĉi tie estas jam sanaj.

Pasas tagoj post tagoj en feliĉo, sed unu afero mankas al ili. Ili ne povas vidi homon specialan, kiun ili lasis en la mondo de vivantoj. Sentante la mankon ili vivas tie.

En iu tago unu el la bestoj subite ekstaras kaj vidas foren. Ĝiaj okuloj brilas kaj la korpo tremas. Ĝi ekkuras rapide al la figuro fore vidata. Karmemoran homon ĝi trovis! Pro ĝoja revido la du brakumas unu la alian. La du neniam disiĝos.

Ili kune iras sur “Ponto de Ĉielarko” al Paradizo.

Mi ne scias, kiu verkis la originalan fabelon. De homo al homo ĝi disvastiĝis inter besto-amantoj per interreto.

Nature naskiĝis diversaj versioj. Min interesas unu el la versioj, kiu havas aldoniĝon en la lasta parto. Jen la aldoniĝo:

Inter la bestoj apud la Ĉielarka Ponto troviĝas tiuj, kiuj ne havis amantan homon. Ili vivis en soleco. Ili envie rigardas aliajn bestojn, kiuj revidas karmemoran homon kaj kune transiras la ponton.

En iu tago unu el la solecaj bestoj trovas unu homon starantan sola. De neniu amata estis la homo, kaj ne havis hejmbeston dum la vivo. Ankaŭ la homo envie rigardas ĝojan renkontiĝon de alia homo kaj besto.

La soleca besto proksimiĝas al la soleca homo, suspektante, kial tiu homo estas sola. Kiam ili vidas unu la alian, okazas miraklo. Ili ekscias, ke ili fariĝis specialaj ekzistaĵoj unu por la alia. Ili kune transiras la Ĉielarkan Ponton kiel amikoj, kiujn ili ne povis trovi sur la tero.

Mi estas ateisto kaj ne kredas ekziston de Paradizo, sekve tiun de Ponto de Ĉielarko. Sed la fabelo fakte ial konsolis min, kiam mi perdis miajn hejmbestojn.

盲人分科会を手伝って

本田 照美 (広島県)

私が日本大会に参加する主な理由は二つ。パソコン点訳に関する分科会を開くことと、盲人分科会を賛助会員として手伝うこと。盲人向けに点訳はしていますが、現在直接盲人と接する機会は少ないので、日本大会での盲人分科会は貴重な機会です。

今年の日本盲人エスペ란チスト協会 (JABE: Japana Asocio de Blindaj Esperantistoj) の分科会のメインは JABE 正会員のロイ・ピッシュジトさんの講演。内容はバングラデシュでの盲人としての自分自身の経験と、それをもとにした母国の盲人の教育環境の紹介。社会福祉法人国際視覚障害者援護協会 (IAVI) の奨学金を受けて学生時代に来日した後は、高知県立盲学校で「按摩マッサージ指圧師」「鍼師」「灸師」の免許を取得。その後、筑波大学理療科教員養成施設で教員免許を取得し、現在は滋賀県立盲学校で理療科教員として勤務する傍ら、NPO 法人「シヨブノ バングラデシュ視覚障害者支援協会」を設立し、母国の盲人が教育を受けられるように支援をしているそうです。

「シヨブノ」はベンガル語で「夢」という意味。バングラデシュの盲人が夢を持って自らの力で生きていくことができる社会を目指していますと。もう一つの夢は、バングラデシュからパラリンピックの選手がでることも話していました。

日本の盲学校とバングラデシュでの学習環境の違い、帰国せず日本で NPO を作って活動することにした理由など興味深い話が聞けました。

今年のもう一つの目的は「まるくん」(RoBoHoN)、つまりロボット型の電話 (デフォルトではそう自己紹介します) を紹介すること。人工知能を搭載していて日本語は理解しますが、エスペラントは話さないで、無理やりエスペラントに聞こえる挨拶を覚えさせ、知り合いに聞かせてまわりました。挨拶させて、ダンスさせて、それだけで「かわいい」と。今後できれば“La Espero”を歌わせたいと考えていますが、アプリを作らなければならないようで、アンドロイドの勉強から始めなければなりません。まだ手が付けられないでおります。

琵琶湖のほとりで手作り石鹸

田上 和子 (福岡県)

四百万年の歴史をもつ世界有数の古代湖である「琵琶湖」のほとりで開催された今大会は、いろいろな意味で勉強になりました。まず、近江商人発祥の地であり、かつ近江八幡市名誉市民の第 1 号であるヴォーリズの学園を会場としたこと。建築家でもあるヴォーリズ的设计によるこの学園は、緑の多い環境の中に教育の理想を形にした素晴らしい学校でした。5階にあって見晴らしのよい平和礼拝堂。教室札の素敵なデザインや絵画。広くゆったりした廊下・階段等の造りに、学校とは思えない温かさを感じました。

琵琶湖から発信された「合成洗剤追放運動」と関連するのか、「手作りせっけん」の分科会があり、参加してみました。準備された材料を前に作り方の説明を聞き、いざ作業…。グループの人たちと楽しくしゃべりながら、ハーブとアロマを微妙に組み合わせ、世界で 1 つの石けんができました。エスペラント初心者の中には、日本語が使えたくつろぎのひとつときでした。

公開入門講座では 2 人組になって、自己紹介や趣味について会話する中で、椿や藍を育て藍染めまでしてある話等、貴重なお話を聞くことができました。参加者の多くはエスペラントをすんなり話されたので、「初心者とは思えない」との講師の評でした。

また、固い講座のあいまに音楽があり、野田淳子さんの曲には細部まで神経が届いていて感動しました。「死んだ男の残したものは」が特に好きでした。そして、山口隆雄さんの「琵琶湖」と芹野与幸さんの「ガントレットとヴォーリズ」両講演は初めて聞く事柄ばかりで、今後の学習の課題となりました。

参加者の中にエスペラントで結ばれた夫妻がおられ、その方々はお互いに労りあい、下の名を呼び合う等、対等な関係が見られました。この平等性はまさにエスペラントの精神性から来ていると思います。エスペラントは単に言語としてだけでなく、その根源にザメンホフが目指した人類愛・平和主義が抱合されている……と今さらながら感じ入ったことでした。皆さんありがとうございました。

Uraŝima Taraŭ (6)

el "Otogi-zaŭŝi", 14a – 17a jarcento
tradukis **belmonto (yamasita tosihiro)**

Taraŭ iris plorante tra densaj kaj rosplenaj herboj, adorkliniĝis antaŭ la tomo, kaj larme utais jene:

Kia min korŝir' atendis
Post portempa ĝojvetur'!
Tigroj hejme jam bivakis,
Hom' ne loĝis en sekur'.

Li longe sidadis sub unu pinarbo spiritforeste, kaj zorgis, ke lia edzino, la testudo, malpermesis malfermi la memoraĵan skatolon, "Sed kia alia rimedo restas ĉe mi por vivi post ĉio? Jen, mi malfermu ĝin kaj vidu." Sed tiu decido alportis al li la tragedion! Tri purpuraj strioj fluis supren el la kesto. Ekvidinte tion, li, aĝa je dudek kvar aŭ kvin, tute metamorfoziĝis.

浦島太郎 (6)

御伽草子集より

太郎は、泣く泣く、草深く露しげき野辺を分け、古き塚に参り、涙を流し、かくなん、

かりそめに
出でにし跡を来て見れば
虎臥す野辺と
なるぞ悲しき

さて、浦島太郎は、一本(ひとつ)の松の木蔭に立ち寄り、あきれはててぞゐたりける。太郎思ふやう、亀が与へしかたみの箱、あひかまへてあけさせ給ふなど言ひけれども、今は何かせん、あけて見ばやと思ひ、見るこそくやしかりけれ。この箱をあけて見れば、中より紫の雲三すぢ上りけり。これを見れば、二十四五の齡(よはひ)も、たちまちに變りはてにける。
(次ページに続く)

Kelkaj memoroj en Oumihachiman

SHIRAKAWA Yuma (Kioto)

La 103-a Japana Esperanto-Kongreso okazis en Oumihachiman. Tiam mi havis nur unu taskon de interpretado. Krom tio ĉe mi estis nenio plenumi, mi do simple ĝuis la atmosferon de la kongresejo. Mi interkontatiĝis kun kelkaj partoprenantoj, gapis la libroservon, ŝvebis inter kelkaj programeroj kaj promenis tra la bela urbo.

El *Phnom Penh* venis s-ro *Sreng Teklong*. Li estas vigla, humura kaj modesta ĥmero, parolis pri la emocio en sia unuafoja Esperanto-kongreso, jama sperto en Japanio dum tiuj mallongaj tagoj, kaj streĉiĝo antaŭ sia debuto de prelego. Ni tuj interamikiĝis. Mi havis bonan ŝancon interpreti lian prelegon en la japanan. Miaj nespertaj oreloj plurfoje malsukcesis kapti lian akĉenton. Mi ja senpene interparolis vizaĝ-al-vizaĝe kun li, tamen mi
2017.1

neniam interpretis antaŭ publiko, sur la podio distancis la preleganto kaj la interpretanto, ambaŭ streĉitaj, kaj la helpilo de la enhavo (projekciataj fotografaĵoj) estis al mi malfacile rigardebla. Lia interesa parolado pri la kamboĝa movado de Esperanto, malgraŭ miaj fuŝoj de traduko iris kun sukceso. Tio estis mia honoro. Sed por plia sukceso, mi ekzerciĝis en aŭskultado kaj japanlingva parolado.

Estis de mi iom bedaŭrataj aferoj. Mi ne povis trovi mian celatan libron. Mi ne povis ĉeesti en prezentado de Esperanta filmo, kiu okazis eĉ dufoje, simple pro mia malfruiĝo. Mi povis revidi tie multajn amikojn kaj ankaŭ interkonatiĝi kun novaj, sed ne povis vidi multe da samaĝuloj. Miaj studento-amikoj en Kioto havis alian aferon en la tri feritagoj, kiam estas konvena sezono por diversaj eventoj pro komforta vetero. Tio, kion mi skribis supre, ne estas sola domaĝo, sed ankaŭ motivo por estonta fojo.

Poste *Uraŝima* estis ŝanĝita al gruo, kiu trakuris la vakan firmamenton. La rezono de la metamorfoziĝo estas, ke la testudo enŝovis ĉiujn liajn vivjarojn en la ujon laŭ sia bonvolo, tial li konservis sepcent jarojn. Kian bedaŭron kaŭzis rompi la promeson ne malfermi! Oni utais pri disiĝo:

Nun tagiĝas post amoro
Disiĝlarmoj en okul'.
Taraŭ perdis el skatolo
Junkareson en nebul'.

Ĉiuj vivaĵoj ne povas esti sen kompatoj. Kiel la proverbo “Tiu estas arbo aŭ ŝtono, kiu ne rekompencas la favoron, nur ricevinte ĝin kiel la homo.” Oni diras, ke la geedzoj en profunda amo ligas ĉi tiun mondon kaj la transan, por dankema afero.

Uraŝima transformiĝis al la gruo, kaj ludis en la sankta monto *Penglai**. Kaj oni aŭdas, ke la testudo konservis tri elementojn ĉe la ŝeloj, t. e. la ĉielo, la tero kaj la homo, kaj vivis dek mil jarojn. Do oni citas la grupon kaj la testudon por gratulinda afero. Oni diras, ke vi estu kompatema homo, kiu povos vidi la feliĉan konkludon en la vivo.

Kaj plu poste *Uraŝima Taraŭ* aperis kiel dio ĉe la vilaĝo *Uraŝima*, en la regiono *Tango*, kaj savis popolon kaj vivaĵon. La testudo ankaŭ aperis en la sama regiono kiel diino, kaj ili fariĝis la geedzaj dioj, kio estis la favorplena ekzemplo, kia ne ekzistis antaŭe.

* **monto *Penglai*** = sankta monto en fabelo aŭ fantazio, kion oni serĉadis ekde antikvaj tagoj, por gajni eternan vivon aŭ junecon. 蓬萊山 (ぼらいさん)

さて、浦島は鶴になりて、虚空に飛び上りける。そもそも、この浦島が年を、亀がはからひとして、箱の中にたたみ入れにけり。さてこそ、七百年の齡 (よはひ) を保ちける。あけて見るなどありしを、あけにけるこそよしなけれ。

君に逢ふ
夜は浦島が玉手箱
あけて侮しき
わが涙かな

と、歌にも詠まれてこそ候へ。生(しやう)あるもの、いづれも情(なさけ)を知らぬといふことなし。いはんや、人間の身として、恩を見て恩を知らぬは、木石に譬(たと)へたり。情け深き夫婦は、二世(にせ)の契りと申すが、まことにありがたきことどもかな。

浦島は鶴になり、蓬萊の山にあひをなす。亀は、甲(こう)に三せきのいわみをそなへ、万代(よろづよ)を経しとなり。さてこそめでたきためしにも、鶴亀をこそ申し候へ。ただ人には情あれ、情のある人は、行く末めでたきよし申し伝へたり。

その後、浦島太郎は、丹後国に浦島の明神とあらはれ、衆生(しゅじやう)濟度し給へり。亀も、同じ所に神とあらはれ、夫婦の明神となり給ふ。めでたかりけるためしなり。

2017年世界大会 (ソウル)

7月22日(土) ~ 29日(土)

KLEG 旅行団実施予定。

旅行の日程・費用などは追ってお知らせします。
大会自体への参加は、2016年中に JEI などへ
申し込まれるのがお得です。

相関詞の末尾の“-o, -a”は語尾か、 語根の一部か？(8)

田熊 健二 (奈良県)

(33) tiajo 採録辞書

tiaはtia～という形で派生語を作ります。例えば、tiamaniere, tiaspeca, tiagradeなど。唯一tiajoだけがtiaajoとならないのです。Tekstaroではtiaajoは1件もヒットしません。

私が見ることのできた範囲の32の辞書・単語集等の中で、「neniigi等」を採録しているのは20ありますが、tiajoを採録しているのは、(1)『エス日』、(2)PIV2005 [(6)PIV初版(1970)も含めて]、(5)Plena Vortaro (PV)、(13)『簡明エス日』、(23)Butler Esp.-Ang.、(26)『世界語中文』、(27)Waringhien Esp.-Fra.、(28)Krause Esp.-Ger.、(30)Middelkoop Esp.-Ned.、(31)Ma Young-tae Esp.-Kor.の10と、かなり少ないです(注：前回述べたようにカッコ付きの番号は、これまでに述べた見出し項目の番号です)。

tiajoの扱いも辞書によって異なり、いくつかに分類できます。

[1] 独立した見出し語

(1)『エス日』ではtiaの派生語としてではなく、tiaj/oとして独立した見出し語として採録されています。すなわち、tiaj-までが語根です。

[2] 「語尾語」ti/o, ti/aの派生語

(2)PIVでは「語尾語」ti/aはtioの派生語ですが、そのまた派生語としてti/aj/oとしています。(31)Ma Young-tae Esp.-Kor.の方は直接「語尾語」ti/oの派生語としています。(28)Krause Esp.-Ger.は「語尾語」ti/aの派生語としています。他のti/aの派生語は-a付きのtia～の形となっています。

[3] 「語根語」tiaの派生語

(5)Plena Vortaro(PV)や(26)『世界語中文』、(27)Waringhien Esp.-Fra.、(30)Middelkoop Esp.-Ned.では「語根語」tiaの派生語として～ajoとしていますので、tia/aj/oを意味します。しかし、前述したとおり、Tekstaroではヒットしないことから、tiaajoとしていか疑問が残ります。さらに『世界語中文』には、派生語としてti-ali-kaŭze, ti-alimaniereがあがっていますが、これらは「語根語」tiaに適合しません。

2017.1

[4] 類推による-aの欠落

(13)『簡明エス日』tiaの-aが落ちるのは類推による例外、tiaajoのほうが普通、との注記があります。しかし、tiaajoはTekstaroでヒットしないので、tiaajoが普通とは考えられません。

[5] 「語根語」tiaの派生語では矛盾

(23)Butler Esp.-Ang.ではtiaは「語根語」としているのにtiajoでは矛盾します。[4]と同じく類推による-aの欠落としているのかもしれませんが。

上記のようにtiajoは辞書により「語尾語」ti/oの派生語、「語尾語」ti/aの派生語、「語根語」tiaの派生語として取り扱われています。「語根語」tioの派生語とするものはありません。

ところが同じ-aj-が付くneniajoはnenioが「語尾語」であれ、「語根語」であれ、ほとんどの辞書がnenioの派生語としています。「語尾語」neni/aの派生語としているのは、(29)Matthias Esp.-Ger.だけです。

(34) 考察

調べていて感じたことは、辞書編集者によってこんなにも考え方が違っていいのか、ということです。私はごく単純に、創始者ザメンホフが「相関詞の末尾の-oおよび-aは名詞語尾および形容詞語尾である」という趣旨のことを明言しているのですから、それでいいと思います。名詞、形容詞の意味を持つ相関詞に-o, -aを語尾として与えるのはごく自然だと思えます。

しかし、辞書で見える限り、-o型、-a型「語尾語」相関詞のうち、neni/oとti/oが語尾を除いて派生語を作っています(-a型相関詞は-o型相関詞の派生語と見なされます)。具体的には「neniigi等」、「nenifarado等」とtiajoだけが「語尾語」として機能して、ほぼnenioだけに偏っています。この現状に対して、辞書編集者が-o型、-a型相関詞全体を「語尾語」とすることを良しとするか否かで、見解が分かれるのではないかと思います。

果たして、これ以外に相関詞の語尾を除いて派生語を作っている例はないか、Tekstaroで徹底的に検索してみました。その結果、辞書にはありませんが、i/aj/o, i/ul/o, ĉi/aj/oj ti/ul/o, ti/ul/in/o, neni/ul/o, neni/ul/a, neni/um/iが新たに見つかりまし

た。ci/o は語尾を入れないと近接を表す ĉi と区別できないので、ヒットした ĉiaĵoj はどちらの意味か見た目にはわかりませんが、前後の文を読んでも、ĉiaj aĵoj と読み取れます（近接の意味では ĉi とハイフンを入れるのが普通ですが、ハイフンのない場合もあります）。また、ti/aj/o 以外に ti/ul/o, ti/ul/in/o がヒットしました。さらに tias, kias, kiis がヒットしました。これは ti/as, ki/as, ki/is と考えられますが、特殊な例だと思えます。前の2つは短い文しか見ることができませんでしたので、意味がはっきりしません。kiis は原著 *Lingvistikaj aspektoj de Esperanto* p60 から探し出すことができました。実際には存在しない動詞の疑問詞 ki/i を仮定して作った文の中で、過去形として使われているもので、これは除外されます。これらを含めると実状は [-o 型、-a 型関連詞は「語尾語」としての実例が一応そろっていることになります。

[すべての関連詞は「語根語」というのは、ザメンホフの明言に反し、「neniigi 等」を何らかの形で nenio の枠外に出すことが必要ですが、関連詞の体系としてはすっきりしていると思えます。枠外に出す方法としてはすでに述べたように、『エス日』では見出し語 neni- を立て、『新選エス和』などでは接尾辞部分も語根に組み込むなどがあります。しかし、すでに存在する「neniigi 等」よりも今後は nenio に直接 -igi など付加した「nenioigi 等」を使用するのが望ましいと推奨していただきたいところです。tiaĵo ももちろん tiaaĵo です。ザメンホフは *Lingvaj Respondoj* で「neniigi」および「neniigiĝi」はすでにずっと前からすべてのエスペランティストによってよく知られ使用されているのだから、今さらこの形の使用を禁じることは全く無用のことと考える」と述べていて、また、現在まで「nenioigi 等」あるいは「neniaigi 等」は Tekstaro で検索しても使用例がないのですが、[すべての関連詞は「語根語」]を徹底するためにはこうする方がいいのではないかと思います。支持者が多ければ、将来の辞書には「neniigi 等」は古い言い方と注記されるかもしれません。

他の分類の [neni- 型関連詞は「語尾語」] や [neni/o, neni/a の2つが「語尾語」、あるいは [neni/o だけが「語尾語」] というのは、私には受け入れがたいです。neni- 型「語尾語」関連詞では neni/

o, neni/a 以外の neni/u, neni/e, neni/es, neni/el, neni/am, neni/al, neni/om を「語尾語」とする必要は全くなく、neni- 型関連詞が「語尾語」である、と体裁を整えるために加えられているように見えます。また、[neni/o, neni/a の2つが「語尾語」、あるいは [neni/o だけが「語尾語」] というのは、エスペラントが嫌う例外を持ち込んでいるように見えます。

私個人としては [-o 型、-a 型関連詞は「語尾語」] が妥当と思いますが、個人個人が「あれがいい」「これがいい」というような問題ではないと思えます。また、辞書編集者も、辞書全体の単語数からみれば関連詞はごくわずかですが、基本の重要単語であり、関連詞をどう扱っているか、凡例などで見解を示してほしいものです（示している辞書もあります）。

Akademio de Esperanto にはこの問題を検討してどう考えるのがいいのか、推奨いただきたいと思えます。しかし、この問題を私はたまたま今ごろになって気が付いたのですが、今に始まったことではなく、ずっと以前から存在しているわけですから、Akademio にとっては、特に取り上げるべきテーマでないとか、検討はしたが、特にコメントすべきことではないということかもしれません。

実用上は関連詞が「語尾語」であれ、「語根語」であれ、ほとんど支障をきたすことはありません。例えば、neni/ig/i であれ、neniig/i であれ、実際に使用されるときは、neniigi と書かれ、「ネニイーギ」と発音されます。同じ文字、音声で違いはありません。また、nenifarado であっても、nenio(n)farado であっても十分コミュニケーションが取れるでしょう。文法上の解釈は多岐にわたっていても、実用上は問題にならないといえます。

(35) あとがき

執筆する前は4～5回の連載で終わるだろうと思っていたのですが、調べていくうちに書くことが増え、8回の連載となってしまいました。連載しながら、これも調べようか、あれも調べようかと追加していったものですから、まとまりに欠け、ダラダラと長くなってしまいました。最後まで読んでくださった方に感謝します。

(完)

Brexit Signifas Brexit

Ian RAPLEY (Britujo)

2016年6月にイギリスで、EUを離脱するかどうかの国民投票が行われました。イギリス人のRAPLEYさんに、このできごとについて書いていただきました。

Mi enlitiĝis en la tago 22a de junio pli certa ol mi estis dum kelkaj semajnoj. La opinisondoj indikis, ke la Unuiĝinta Reĝlando voĉdonos por resti en la Eŭropa Unio, eĉ se nur per malgranda kvanto. Do kiam mi vekiĝis la sekvantan matenon kaj legis mian telefonon, mi hororiĝis eltrovi ke “eliri” gajnis.

Ekde la rezulto la lando estis en tumulto. La ĉefministro ekŝiĝis, la pundo falis draste, rasismaj incidentoj resurektis, unu politikisto estis enhospitaligita post kiam oni kverelis kun kolego, kaj eĉ en la koro de ‘brexit-lando’, kie mi loĝas, kafejoj estas plenaj kun personoj diskutantaj pri ‘kio okazis’. Kial oni voĉdonas eliri, kaj kio okazos poste? Al la unua demando mi povas eble respondi, sed al la dua neniu scias.

52% voĉdonis ‘eliri’, kaj 48% voĉdonis ‘resti’. Skotlando (62%) kaj Norda Irlando (55%) voĉdonis ‘resti’, Anglio (53%) kaj Kimrio (51%) voĉdonis ‘eliri’. Universitato-urbetoj voĉdonis ‘resti’, eks-industriaj areoj voĉdonis ‘eliri’. La junaj voĉdonis ‘resti’, la maljunaj voĉdonis ‘eliri’. Laboristoj ‘eliri’, la burĝaro ‘resti’. Plej surprize, areoj kiuj ricevas la plej EU-financadon voĉdonis ‘eliri’.

La plej konvinka analizo diras, ke la personoj kiuj ne profitis de tutmondiĝo voĉdonis ‘eliri’ en pli grandaj nombroj. Kvankam la EU ne estis la kaŭzo de liaj problemoj, lokoj kiel Suda Kimrio, aŭ

nordoriente Anglio, voĉdonis por ŝanĝo - ajna ŝanĝo. La industrioj (karbo kaj ŝtalo) de tiuj regionoj malpliĝis ekde la 1980-aj jaroj: EU subvencioj ne povis anstataŭi la senton de identeco kaj celo, kiuj perdiĝis kune kun laborpostenoj.

Kio estu la en la estonteco de Britio? Neniu scias. La nova Ĉefministro, Theresa May diras “Brexit signifas Brexit”, sed kion Brexit signifas? La grava decido estas enmigrado aŭ komerco. ‘Eliri’ kampanjantoj volas limigi enmigradon, sed la brita ekonomio bezonas liberan komercon kun la EU komuna merkato. Aliro al la merkato bezonas malfermi landlimojn ene de EU.

‘Malmolan Brexit’ signifas kompleta eliro de la EU & la komuna merkato. Ĝi reduktus enmigradon, sed ĝi eble estos ekonomia katastrofo. ‘Mola Brexit’ signifas ion kiel la Norvegio-modelo - ekster la EU-politiko, sed interne de la ekonomiaj kaj sociaj institucioj. Tio retenus aliron al la merkato, sed ĉu tiu satigos la eliri-balotantojn ?

Kun tia kompleksa intertraktado, ĝi povas ne eble por forlasi la EU. Kiel la vortoj de *Hotel California*: “Vi povas elskribiĝi en ajna tempo kiam vi deziras, sed vi neniam povos eliri”.

Redaktoro komentas:

“Brexit” estas neologismo en la angla, kombino de “Britain” kaj “Exit”. La vorto signifas “eliro de Britio el Eŭropa Unio”.

“Hotel California” estas kanto, kiun kantas usona rok-grupo EAGLES. En la lasta parto de la teksto troviĝas jena frazo:

*You can check out any time you like
But you can never leave!*



野田淳子さんのコンサートで

光川 澄子 (京都府)

京都エスペラント会のシンガー
ソングライター・野田淳子さんが
11月26日午後、京都府立文化芸術
会館でコンサート「刻々の誕生」

を開かれました。

前半第1部は「愛」をテーマに、後半第2部は、テーマ「歌の力」として、特に歌詞の影響力は良くも悪くもその力は大きく、戦時中は当時の体制が歌詞を利用して国民の戦意高揚をはかったなど、まさに時代を映す鏡のような例も説明され、初耳だった聴衆者もいられたと思われまます。

第1部、第2部通してエスペラント訳の歌詞をまじえて歌われましたが、その間にも、エスペラントについて度々話され、エスペラント広報にも務められました。

最後のアンコール曲ボブ・ディランの「風に吹かれて」まで清らかな声で歌い上げられ、万雷の拍手の中に和やかなコンサートは終わりました。

なお他府県からも数人のエスペランティストの参加がありました。

新人の投稿を Monato が採用

新田 隆充 (山口県)

今年5月15日にエスペラント図書館(山口県下関市)で入門講座を受講した Okubo Masami さんの投稿が Monato 誌 12月号に掲載されることが、11月20日にわかった。投稿ではスイス大使館主催のダダイズム100周年アートコンペを取り上げた。

Okubo さんが受講したのは、30分でエスペラントの要諦が理解でき、作文まで完成させるエスペラント図書館式入門講座。学習開始約4ヶ月での国際誌投稿は国内では極めて異例。Okubo さんは国際誌投稿コンクール KIK2.org にもエントリーしており、日本からの初ポイント獲得が期待されている。エスペラント図書館では Okubo さんをロールモデルとして、今後も発信型の学習者を創出していく考え。

(編集部注: KIK は "Konkurso Internacie Kontribui" の頭文字で、「2」は第2回の意味)

JEI 講師養成講座「実演から学ぶ」

2017年1月28日(土) 13:30 ~ 17:00 京都のエスペラント会館で、参加費2000円、定員15名。2016年2月に JEI で行われ、人気が高かった体験型の講師養成講座を関西でも行います。講師が実践して効果が確認できた教え方や工夫を実際に見せていただき、参加者にもまねてやっていただきます。申し込みは、日本エスペラント協会へ。

電子メール: esperanto@jei.or.jp

電話: 03-3203-4581 ファクス: 03-3203-4582

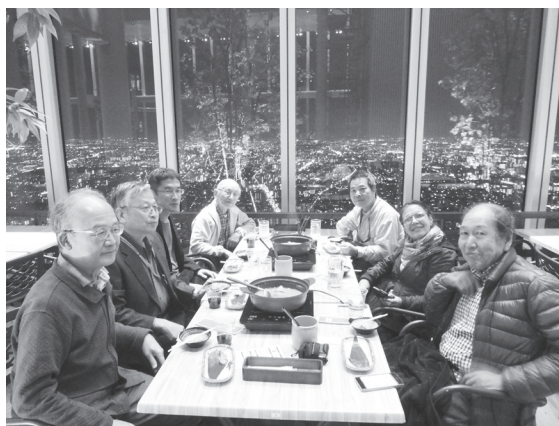
[← KLEG 教育部]

松本徹・マリア夫妻の歓迎会

コロンビア在住の松本徹・マリア夫妻が5年ぶりに日本に帰国したのを機会に、大阪エスペラント会が10月31日(月)、あべのハルカス展望台で歓迎会を行った。参加者は、KLEG 個人会員の宮本義人さんを入れて7人。

60階(300m)の展望台から、大阪の美しい夜景を楽しんだあと、58階の展望レストランで開会した。料理は大河ドラマ「真田丸」にあやかって、真田幸村鍋、飲み放題付き。鍋の具材にも幸村の軌跡を巡る各地の食材の説明(こじつけ?)付き。アルコールのメニューには冷酒「真田丸」もあるというこだわり。好きな飲み物を頼み、鍋をつつきながら歓談した。スペイン語の話せる宮本さんが参加してくれたおかげで、マリアさんとも話がはずみ、マリアさんも楽しそうだった。

[←田熊 健二]



各地で秋の行事

神戸エスペラント会

10月9日、神戸青少年会館で行われた「明青祭」に参加。この会館は、神戸エスペラント会がふだんから土曜日例会や役員会で利用している施設。

毎年、会館5階のホール、エレベータ前の最高の場所が提供されている。今年は例年と形を変え、展示に加えてチラシ作戦を行った。B5の用紙二面に印刷された物を2種類セットにして、約200部を配った。午前10時頃から準備して、終わったのは午後4時。

毎年、この催しはエスペラントの日本大会と日が重なり人手が足りないが、今年は隣のはりまエス会からの応援があった。 [←磯貝 尚武]

高槻エスペラント会

10月28日～30日の3日間、で第51回のエスペラント展を開催、407人の市民が来場した。“地球時代のことばエスペラント”をテーマに、これまでの蓄積を軸に展示内容を見直し、会場の設営も市民の皆さんにわかりやすい展示を目指した。今回も地元国会議員の辻元清美さん(写真)が来場し、一つ一つの展示コーナーを評価しながら興味深くみておられた。

「妻の屍を抱いて」をエス訳し、反核平和を世界に訴え、大きな反響を呼んだ故田中貞美さん(高槻エスペラント会初代会長)のパネルにじっと見入る高校生の姿が印象的だった。

更新した「世界の人たちから見た日本・日本人」のパネルには多くの人たちが足を止めて、あれこれと意見を言い合う様子の一コマを背後よりカメラに記録した。いい雰囲気での第51回だったと私たちは思っている。 [←浮田 政治]



はりまエスペラント会

10月30日、姫路城南の大手前公園で開催された第21回姫路国際交流フェスティバルに参加した。展示ブースでは世界大会、関西大会、各国のエスペラント活動、エスペラントの簡単な文法、JR釜石線の駅名にエスペラントの愛称があることを、地図で展示紹介した。

また、3分間コーナーでは「国際語エスペラントでなんだろう?」を見てもらい、エスペラント・クイズを解いてもらった。メッセージカード(挨拶)と折鶴、飴、折り紙で作った箱、数種のパンフレット等を配布した。 [←多田 龍二]

吹田エスペラント会

11月3日午後、吹田市民文化祭のプログラムのひとつとして、「エスペラントふれあい講演会」を開催した。会場は例年と同じメイシアター小ホール。



講演者は、今話題のアドラー心理学研究者として知られる岸見一郎さん。テーマは「人と人が結びつくこと ～アドラーを知れば世界が変わる～」。

例年、チラシやポスターで講演会の宣伝をしているが、今回は初めて、インターネットのイベント集客支援無料サービス「こくちーずプロ」を利用した。また並行して電話申し込みも受けつけた。参加申し込みは電話57人、インターネット60人の合計117人となり、これまでにない人数だった。ただ、ネット申し込みでは当日の欠席も多かった。

当日は副会長のあいさつ、恒例の吹田第6中学校PTAコーラス同好会の手話コーラスと、エスペラントコーラス Heliko との共演で4曲披露。次いで本題の講演が始まった。

まず、ザメンホフとアドラーはほぼ同時代、19世紀後半から20世紀初めの哲学者が多く誕生した時代の人だった。あらゆる悩みは対人関係から生まれるので、対人関係を良くするためには自分を好きになること、人と人とは仲間であるという意識「共同体感覚」を育成していくことなどが大切と話された。「共同体感覚」の説明では、司会者が言った

“Ni estas amikoj”に触れ、ザメンホフも引き合いに、仲間意識の大切さを語られた。

休憩後は第2部の質疑応答で、8人の方から悩みや疑問が出されたが、一つ一つ自身の経験や他の具体例をまじえてわかりやすく丁寧に答弁された。

[←大畑 賀代子]

(編集部より：アドラー心理学については、2016年9月号 p.1の記事を参照してください)

宇治城陽エスペラント会

10月22日・23日に、文化パルク城陽で行われた「城陽市民文化祭」に参加。エスペラントについての説明パネル、外国人を例会や自宅に迎えた時の写真、書籍などを展示した。

また11月12日・13日に行われた「宇治公民館まつり」にも参加。展示内容は上記とほぼ同じで、例会を紹介するチラシも配った。

城陽・宇治ともに、他の数グループと同じ部屋での展示で、ついでに覗いたという訪問者が多かったようだ。

[←相川 節子]

枚方エスペラント会

11月27日、枚方公園青少年センターの利用団体による展示発表会「One day フェスティバル」に参加した。

昨年山口県で行われた「世界スカウトジャンボリー」でエスペラントブースが賑わっている風景、日本各地での交流風景、枚方エスペラント会発行のマンガ“Rakontoj de Ovoj”と贈呈した青年たちとの



写真、枚方を訪れた海外からのお客様の写真と、『武器では地球を救えない』『度十公園林』などの絵本や児童書を展示した。

エスペラントの本を使って説明

したのは5人ほど。興味深く質問してくれた人には、冊子「通いあう地球のことば 国際語エスペラント」を、ガールスカウトの高校生を含む12人に贈呈した。

また、YouTubeで公開されている動画“Esperanto estas”を、字幕つきで繰り返し流した。

ガールスカウトの団体がこのフェスティバルに参加していて、当日午前中は小学生から高校生までのガールスカウト達がロープワークなどの講習を行っていた。付き添いの親たちがついでに展示を眺めていた。

[←堀田 有里]

ロンドの近況

福岡エスペラント会

一日講習会を毎月実施している。10月は18日に、11月は15日に、「アクロス福岡」の喫茶コーナーで行った。10月は継続学習中の3人と初めての受講者1人、合計4人、11月は継続学習中の3人が受講した。講師は武藤たつこで、テキストは日本エスペラント協会発行の『ドリル式エスペラント入門』を使用している。

また、10月の月例会は23日に、11月の月例会は20日に、福岡市国際会館で開いた。日本大会や中国・四国大会の報告を聞いたり、作文の練習や“Vojaĝo kun Katrina”の輪読などを行っている。

[←武藤 たつこ]

宮崎エスペラント会

11月は12日と26日に例会を持った。“Modernaj Robinzonoj”と“Vivo de Zamenhof”の輪読などを行っている。

[←近藤 方彰]

池田エスペラント会

11月26日の月例会で、出席者が俳句を詠み、「モバード俳句」に投稿した。

[←島谷 剛]

KLEG 委員会報告

11月19日午後3時半より、KLEG事務所で開催。出席者16人、委任7人。議長：大西真一さん（近江）書記：相川節子さん（宇治城陽）。主な報告審議事項は①第64回関西大会の決算②第65回関西大会の進捗状況③第48回林間学校の決算④第103回日本大会の感想と評価⑤ザメンホフ祭⑥部局報告⑦ロンド報告、その他

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros nomon de unu el la monatoj.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de decembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5		6	7
8			*			9	
10					11		*
12		*		13		14	
15	*		16			17	
		18			19	20	
21	22			23	24		25
	26					27	*
28					29		

Horizontale: 1. Skribilo ĝenerale uzata.(x) 6. Gramatika finaĵo de verbo prezenca.(x) 8. En la ekskurso ni ~is per buso.(x) 9. ~isto estas persono, kiu amas nur sin mem kaj agas nur laŭ sia deziro.(x) 10. Tro multe da dolĉaĵo dik~as vin.(x) 11. Ĉiuj homoj estas ~aj antaŭ la leĝo.(x) 12. Persono, kiu vizitas vidindaĵojn. (x) 14. Trinkaĵo amata ĝenerale en la mondo. (x) 15. De floro ~ floro papilio flirtas.(x) 16. Teleskopo konsistas el ~oj kaj cilindro.(x) 18. Pro subita pluvo mi mal~iĝis.(x) 19. Nun mi estas dorm~a, ĉar mi mallonge dormis en la lasta nokto.(x) 21. Esperanto ~as esti internacia helplingvo.(x) 23. Aviadilo estas unu el la ~oj veturi de Japanio al Koreio.(x) 26. En lingvolernado ~as vortaro.(x) 27. ~ ekzistas 2017.1

fumo sen fajro.(x) 28. Malo de nordo.(x) 29. ~o de frukto estas bongusta.(x)

Vertikale: 1. Papero, per kiu oni konfirmas ricevon de mono aŭ aĵo.(x) 2. Mi ~e vizitas klinikon pro kronika malsano.(x) 3. partecipo prezenca.(x) 4. Festo, per kiu oni solenas la dudek~kvinan, kvindekan, aŭ centan jaron. (x) 5. Valora metalo.(x) 6. Ŝtono havanta diverskolorajn tavolojn.(x) 7. En la lasta tago de la kongreso okazis ferma ~o.(x) 9. Sufikso esprimanta grandecon aŭ intensecon.(x) 11. Klasifiko de homgrupo simila al "nacio".(x) 13. Kaŝita afero.(x) 17. ~o de pomo estas interne de la frukto.(x) 18. Veturilo sur neĝo.(x) 20. En restoracio oni mendas laŭ ~o.(x) 22. tediĝi.(x) 24. Gramatika finaĵo de verbo preterita.(x) 25. Duoble kvin.

La solvo al la novembra enigmo: PAPILIO

La ĝustan solvon donis 12 legantoj:

前藤寛,
平井倭佐子,
Sayuri,
西千寿子,
Teo,
CA,
TADA,
Orion,
T. Ku,
Kacu,
Grebo,
武藤たつこ

V	E	S	P	E	R		K	E
E	S	K	A	L		S	E	K
N	E	R	V		O		L	
D		I		O	P	I	N	I
R	U	B	E	N		R	E	T
E	R		N	I	Ĉ		R	
D	A	N	K		I	E		I
	N		E	T	A	N	O	L
P	I	N	T		M		N	I

楽しい作文教室(66) 成績

13人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね: Drako(farma), Teo(lian), Orion,
ikona, CA, Ivajo, M.H.,
alfa(trologanta), Fumi

良いね: T.Ku(adoreso), AG(heveno), festo(noba),
Eiko

もうひといき: 無し

キラリ賞: Teo(③), Fumi(④)

Mikspoto

(当欄は敬称略)

★ 未来社のPR誌『未来』に、郷原宏が「岸辺のない海—石原吉郎ノート」のタイトルで評伝を連載している。2016年夏号には、石原と鹿野武一との交流が描かれ、鹿野が口笛で吹く“La Espero”のメロディを聞いた石原が“Ĉu vi parolas Esperante?”と話しかけ、エスペラントの会話をかわしたエピソードなどが紹介されている。 [←田平 正子]

★ 東山あかね著『シャーロック・ホームズを歩く 作品をめぐる旅と冒険』(青土社)の第1章に、世界エスペラント大会に参加するために旅行を計画したことが書かれている。 [←田平 正子]

KLEG

事務局だより

★ KLEG 事務所は、12月30日(金)から1月4日(水)

まで休みます。ご協力をお願いします。

★ 当誌 La Movado は何月からでも購読できますが、12月に更新時期を迎える方が一番多いです。個人会費、購読料の切れる方は、更新をよろしくお願いします。同封している更新用の振替用紙(黒)をご利用ください。

★ メールアドレスをお持ちの方には、新刊案内“Novaj Libroj”を発信しています。希望される方は、事務局までご連絡ください。

楽しい作文教室3月号課題 (1月20日締切)

- ① 私たちの最初の出会いはただの偶然だった。
- ② 夕方、私は車両に乗り込み座った。
- ③ 誰かがエスペラントで書かれた冊子を読んでいる。
- ④ エスペラントで何をお読みですか？

(ヒント) 出会い renkonto、偶然 hazardo、車両 vagono、冊子 broŝuro. nur, en, iu, sinjoro を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはつきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG 後援会にご協力を

関西エスペラント連盟(KLEG)は、数十年間会費や購読料の値上げをせずに、エスペラント界ではまれな機関誌年12回発行を継続しています。しかし、残念ながら会費・購読料や行事収入、図書売り上げだけでは、日常的な経費もまかなえません。

もちろんKLEGは日常活動に加え、ワン・ワールド・フェスティバルへの参加、青年活動支援やアジアの若者を関西大会に招待するなど、さまざまな活動にも取り組んでいます。

これらの活動を支援するため、「関西エスペラント連盟後援会」(振替口座00940-1-26233)へのご寄付をお願いします。「出版基金」、「青年活動支援」、「アジア運動支援」など用途を指定することもできます。

今月号に専用の振替用紙(赤)を挟みこんでいますのでご利用ください。なお、この振込用紙は、後援会専用ですので、会費/購読料や書籍代金の送金などには使わないでください。

La Movado の発行人交代

本誌の発行人は、1960年以来ずっと、北さとりさんをお願いしていましたが、今回、染川隆俊さんが新しく発行人を引き受けてくださることになりました。北さん、長い間ありがとうございました。

La 12-a Internacia Himalaja Renkontiĝo

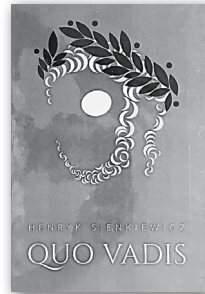
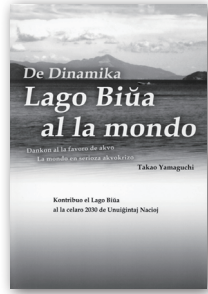
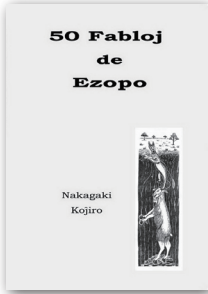
2017年2月26日～3月8日
ネパール、カトマンズ

第54回関西エスペラント大会

2017年6月3日～4日
大阪大学会館(阪急石橋駅より徒歩約10分)

第104回日本エスペラント大会

2017年11月3日～5日
かながわ労働プラザ(JR石川町駅徒歩3分)



★ 新刊・新着 ★

50 Fabloj de Ezopo 600円
中垣虎児郎によるエスペラント版「イソップ50話」の新編集版。合成語や派生語などにはていねいな注釈がありとても読みやすい。竹花人の情趣に富んだ木版画もたのしい。日本エスペラント図書刊行会刊行。A4版、88p.

De Dinamika Lago Biŭa al la mondo 2000円
琵琶湖を多角的に論じた山口隆雄著『ダイナミックレイク 琵琶湖から世界へ』を翻訳チーム Teamo Biŭa が翻訳。図版も豊富な美しい造本。A5版、241p.

滋賀のエスペラント 800円
滋賀のエスペラント運動の歩みを集大成(大西真一編)。大津エスペラント会設立(1926年)から現在に至るエスペランティストの軌跡がここに。A5版、92p.

Pacmesaĝoj tra la mondo 1500円
エスペラント語を使って集めた世界の平和メッセージ。堀泰雄が世界大会などで集めた平和を願うエスペランティスト(56の国、166人)の声。カラー刷りでメッセージも鮮明。A4版、191p.

Quo vadis 3700円
ポーランドの作家シェンキエヴィチによる歴史小説の大作『クォ・ヴァディス』。舞台はネロ治世下のローマ。ザメンホフの娘リディアによる翻訳(第3版)。B5版、450p.

★ 学び、使う、エスペラント ★

エスペラント中级独習 2160円
藤巻謙一著。豊富な練習メニューを満載。CD付。簡明エスペラント辞典 1400円
見出し語4000。派生語を含めた総語数12500。
簡明日エス辞典 1400円
見出し語11000。派生語を含めた総語数は13000。

エスペラント会話教室 [新訂版] 1000円
竹内原著、タニ改訂。基本会話表現の文例が多数。
エスペラントはこうして話す 1000円
藤本達生著。世界大会の案内など実践的な内容。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia 600円
ザメンホフによるエスペラントの原点を示す論文。
エスペラントと平和の条件 1100円
寺島俊穂著。「平和学からみたザメンホフなど」。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ belmontoさんの「浦島太郎」が終了しました。わたしたちが知っている結末と違ったのでおどろいた方も多かったのでは? 次号からは、「御伽草子」を離れて、近代文学の対訳が始まります。

★ 次号の運動欄は「ザメンホフ祭特集」になります。報告をお待ちしています。(相川 節子)

発行所:ラ・モバード社 編集:相川節子 発行人:染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本局:一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール:esperanto@kleg.jp
編集部電子メール:lamovado@gmail.com
振替口座 00960-1-60436「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ: http://kleg.jp
九州支局:九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話 (092) 923-2877
中国四国支局:中国四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町2-4-18 大阪清行方 電話 (0877)22-4771